

# 平成25年度 交通まちづくり懇話会（第1回目）

## 概要

日時：平成25年 7月24日 水曜日 午後2時00分～午後4時00分

場所：八尾市役所本館 8階 第2委員会室

参加者：アドバイザー 1名（近畿大学総合社会学部教授 久隆浩先生）

一般参加者 27名、手話通訳者 2名、要約筆記者 4名、市職員 4名

## 【オリエンテーション】

開会のあいさつ（略）、本日の懇話会の進め方について（略）、前回までの意見・質問等に関する回答（略）

## 【自己紹介】

- ▼ 目がほとんど見えなくなった今、自転車の交通マナーに関して感じるが多々ある。いろいろな啓発活動をあちこちでやっておられるが、目の見えないものにとって自転車は本当に危険で、危ない目に遭うこともある。交通ルールを守ってもらえる社会にしてほしいと思う。
- ▼ 私の所属している団体で、高齢者の方に安全で楽しくまち歩きをしていただき、また健康で生きがいのある生活を送ってもらうことを目的として「八尾を歩こうマップ」という地図を作成した。以前にもこのような地図を作成したが、高齢者の方がより見やすいようにと改訂版を今年3月に作成した。この中には八尾市で整備している遊歩道、コミュニティ道路などを紹介している。この地図の配架場所は社会福祉会館とボランティアセンター、それとファミリーロードの「えんがわ」という高齢者が集まる集会所に置いている。我々の会では今年の11月とか来年の3月とかにウォーキングの会を計画しているので、ぜひご参加いただきたいと思っている。交通まちづくりを推進していく中で、誰もが出歩くのが楽しくなるまちの実現に少しでもこの地図が役立てばいいと思って紹介させていただいた。
- ▼ 自転車を道路に放置することだけはやめてほしいと思う。
- ▼ ちゃりんこバスターズとして高校で自転車のマナーに関する講演をさせていただいている。ルールのことや自転車事故の現状については警察の方からお話があるが、私たちは私たちの立場で高校生みなさんに自転車のマナーに気づいてもらう一つのきっかけになればいいと思っている。ここにいらっしゃる方々にもご協力いただけたらと思う。
- ▼ 聴覚に障がいがあるので電車に乗っていて急に電車が止まった時に放送が聞き取りにくいという不自由さがある。また後ろから来る車のエンジン音が聞こえなくて身体すれすれを通る場合があり怖さを感じることもある。
- ▼ プリズムホール前の横断歩道で自転車にぶつかられたが、その自転車はそのまま行ってしまった。自転車のマナーはみんなに理解してほしい。
- ▼ このような会に始めて参加した。交通対策の内容については初めて聞いたので、今日は見学に来た気持ちで参加させていただいた。
- ▼ 本日の資料を見ていると自転車のことについてたくさん書かれている。今日は色々なことを勉強したいと思っている。

- ▼ 市役所に来る時にはいつもせせらぎの道を通っている。ただその道を時々自転車が走っている。ここは歩道で「自転車は降りて通行してください」と書かれているが、大人も子どもも自転車に乗って通っている。安心して歩けるようにあの道を通る自転車を注意してほしい。
- ▼ 私が気になるのは自転車もそうだが歩きタバコをしている人である。これについては罰金等の罰則があると聞いているが取り締まってほしい。それと私は目が見えないので、横断歩道にエスコートゾーンを設置してもらえれば一人歩きをするのに便利がいいと思う。
- ▼ 中途失聴者だが、自転車よりもスケートボードが気になる。家の前の道路で子ども達がよくそれで遊んでいるが親は注意をしない。学校でも注意してもらいたい。それから自転車が後ろから追い抜いてくるが、耳が聞こえないので後ろから来るものはぜんぜんわからない。
- ▼ 一番の問題は自転車のマナーである。なぜ自転車は自分の都合ばかりでスピードを出して走るのか。もう少しマナーを心得て厳しく罰してほしい。罰し方が甘いように思うのでもう少し厳しくしてほしいと思っている。耳が聞こえない人にとっては車も自転車も怖い。安全な町にしてほしいと思っている。
- ▼ 最近ウォーキングをしている方がだんだん増えてきている。そういった方々のためにウォーキング道が整備されないかと思っている。コミュニケーションというものは非常に大事だと思っている。
- ▼ 一つは自転車の問題が非常に大きな問題だと思っている。それを考える上で今年の春に鉄道のダイヤ改正があった。本数と車両の数を減らした。働く人が減っているのと高齢社会の影響があると考えられる。私が若い頃、モータリゼーションということで車中心の考え方で道路や駐車場がたくさんつくられたが、今そういった部分が大きく変わってきているんじゃないかと思う。自転車を利用する人が増えて問題になっているのなら、社会の中心を車から自転車に移すのもひとつの方法だと思う。第一は人、次に自転車が安心して通行できるようなまちづくりができないかと思っている。
- ▼ 歩道を自転車で走ってこられると怖い。バスを降りると前からも後ろからもすごいスピードを出して自転車がある。危ないので立ち止まると迷惑そうな顔をする方もいる。私は弱視者なので色分けが少しはできる。点字ブロックの黄色を頼りに歩いている。それを違う色にされると雨の日などは特に見にくいところがある。点字ブロックの色はなるべく黄色に統一してほしいというのが弱視者の本音である。
- ▼ ちゃりんこバスターズの活動に参加している。私は車イスなので、歩道を通れない時に車道を通らなければならないので怖い思いをすることが多い。歩道上の駐輪や駐車がなくなればいいと思う。今回始めて参加したが、皆さんの意見をいろいろと聞けるのを楽しみにしているし、勉強になるのも思っている。
- ▼ 車を運転している人からは、高齢者の運転している自転車はふらふらして危ないと聞く。歩行者も自転車もお互いに安全に通れるようになればいいと思う。
- ▼ 交通対策課として主に放置自転車対策に従事している。駅前の自転車放置禁止区域等でお目にかかることもあるかと思うが、そのときはお声掛けいただければありがたいと思う。
- ▼ さきほど紹介した「八尾を歩こうマップ」の作成に関わった一員として参加させていただいている。夜間の無灯火の自転車が多いのと、携帯電話を使用しながらの運転が目につく。交通ルールを

守ってほしいと思う。

- ▼ この懇話会にずっと参加しているが、いつも問題になるのは自転車のマナーということで、この会の参加者の中の何人かとそれ以前から活動しているちゃりんこバスターズの方といっしょに「騎士の会」というものをつくった。自転車に乗る人みんながナイトの心で運転してくればこんな問題は起きないだろうという思いで名付けた。今年度の地域福祉推進基金事業に応募してめでたく受かった。予算もついて、今年度からまちで活動していきたいと思う。みなさんのご協力をお願いしたい。
- ▼ 事故にあって医者からバイクに乗るのを控えるように言われているが、バイクに乗っているときよりも自転車のマナーの悪さが目に付くように感じている。
- ▼ 夏休みに入って中学生の自転車の数が多くなっている。スピードを出して走ってくる自転車がなくて恐怖を感じるので、そういうことがないように生徒たちにもっと指導してほしいと思う。
- ▼ この懇話会にずっと出席して皆さんのご意見や体験談を拝聴して、交通問題は本当に奥が深いと感じている。今日も自転車のマナー等毎回同じ問題が出てきているが、これらは1回や2回の教育では解決しないと思っている。自転車に関しては、事故を起こした子どもの親に9500万円の賠償命令というニュースがあった。こういったことを考えると、子どもの時分から教えていかなければならないと思う。幸いなことに、交通対策課でも高校や中学校の生徒の教育に力を入れているが、私はこういった教育の対象年齢をもっと下げて、自転車に乗り始める年代から親を含めて教育する機会を持つべきではないかと思う。ルールばかりでは解決しない問題である。取り締まるにしても一時的ではなく、継続してやっていくことが非常に大事だと思う。
- ▼ 自転車のことがたくさん出ている。自転車や車を運転する人が交通弱者を守るという意識が薄いと思う。
- ▼ 私は全盲なのでヘルパーさんの誘導で道を歩くが、そうすると自転車がすれすれを通る。私は杖をついているが、杖をついている手を自転車のハンドルにかすられたことがある。杖をついている人を追い越す時はもう少しスピードを落としたりいいと思うが、そういう配慮が全然ない。普通に歩道を歩いても危ない目に何度も遭った。
- ▼ 初めてこの懇話会に出席して、みなさんが真剣にお考えになられていることに驚いている。話題になっている自転車の問題は二つある。一つは放置自転車で、もう一つは自転車における事故のことである。放置自転車については我々の陳情の結果、近鉄八尾駅前にラック式の駐輪場を設置していただいたが、絶対数が不足しているので今後この駐輪場をどう増やすかが課題だと思う。それから自転車事故についてだが、自転車は車道を走ることが原則だということを認識されていない方が多いので、警察の方にそのことについての啓発をお願いした。自転車側にしたら車が怖いから歩道を走るといふ思いがある。八尾だけではないが日本には林道が少ない。林道が整備されていればヨーロッパのように自転車はきっちりと林道を走る。マナーばかりでなくそういったハード面の整備もお願いしたい。自転車事故の多くは高齢者だが、その原因は杖代わりに自転車に乗っている人が多いからだと思う。八尾市は自転車に乗っている人の数が多いということもある。自転車の数が多いということはそれだけ事故も多くなるということである。八尾市は去年の自転車事故の数が大阪

府下でもかなり多いらしい。交通対策課と警察が協力して、自転車で歩道を走る際は歩行者に遠慮しながら走ってほしいという啓発をお願いしたい。

- ▼ 私は大正2年生まれだが、それが元気にこの懇話会に出席できるのは毎日八尾のまちを歩いているからだと思う。ただ八尾は車も自転車も多い。私も歩道を歩いていて事故に遭ったことがある。私はここで伺ったみなさんのお話は知識として頭に入れるが、私が経験してきたことは年寄りの知恵として後の意見交換の場でお話させてもらいたい。
- ▼ 高安駅の踏み切りの歩道が駅のホーム側にしかなく、幅も90センチくらいしかない。その踏み切りで自転車にさすべえをつけて通る人がいる。自分も自転車に乗っているとそのカサが目の高さに来て危ない。それから山本駅前のスーパーの前にラック式の駐輪場ができるが、以前からその駐輪場に停めている自転車のすぐ後ろに自転車がとめられている状態が続いている。それをなくしてほしい。

#### 【意見交換】

参加者による交通全般に関する意見交換を実施。

- ▼ 今年の6月にタンデム自転車（前後に二人乗り）に乗る機会があった。エコだし、便利だし、運動にもなり気持ちよかった。私たちはいつも自転車のマナーが悪い、ルールを守れていないというふうに言っているが、自転車の良さというものをもっと出して、だからこそルールを守ろうという部分が抜け落ちていると思う。自転車の良さを啓発活動の中でもしっかり入れたらいいのではないかと感じた。
- ▼ 交通標識の意味は誰が教えるのかということがある。自転車に乗っている人も歩いている人も標識の意味を知らない人が多い。それを誰が教えるべきかということ、親とか学校の先生が小さい頃から教えないといけない。さきほど自転車事故の賠償金が9500万円という話があったが、自転車は軽車両なので車両事故になる。そのためこれぐらいの金額になってくる。車両として扱われる自転車の怖さを知らなさすぎる。それから先ほどからマナーが悪いという話があるが、それはマナーの問題なのかいつも思っている。私はモラルの問題だと思っている。家庭の中で小さい頃からそういうしつけをしながら教えていくのがモラルである。それがしっかりできていないと大きくなってからも守っていけないと思う。これが問題である。
- ▼ 自転車のマナーのことばかりで恐縮だが、大阪の天神橋筋商店街が自転車をシャットアウトした。前に八尾市でも商店街は自転車をシャットアウトしたらどうかと言ったが、八尾の商店街はシャッター通りになりかかっているのでシャットアウトしたらだめだというような話をしていた。天神橋筋商店街は英断だが、八尾市では適用できないと思った。
- ▼ 近鉄八尾駅前のラック式駐輪場はラックに自転車を入れるとその後ろは何もないが、山本駅前は駐輪している自転車の後ろに自転車が置かれている。今回その駐輪場がラック式に変わるが、そうなるでもまた後ろに自転車が置かれると思う。放置自転車対策係の人にその自転車を取り締まってほしい。
- ▼ 自動車から人へ、自転車へということで、最近近鉄八尾駅前の空き地に自動車用のコインパーキ

ングができています。それを自転車用に転用できないか。自転車が重要な移動手段となっているので、駐輪スペース確保のための努力をすべきだと思う。近鉄八尾駅前でもラック式の駐輪場がだいぶ増えたが、駅前のみずほ銀行前の道路は2車線あるが片側の車線が駐車場のようになっている。あの車線をつぶして全部駐輪場にすればバスも通りやすくなって駐輪場も数倍の規模でできるのではないか。そういう取り組みが必要ではないかと思う。

- ▼ 行政の方にお聞きしたい。先ほど八尾市は自転車が多いという話があったがそのデータはお持ちか。青山通りから近鉄高安駅前の踏切を通過して教興寺まで行く道路について、青山通りから楠根川を通過した辺りまでは広い道路でちゃんと歩道もある。それから少し東側にいくと急に路線の軸がずれて歩道もなくなり、車道も狭くなっている。それから玉串川の手前でまた極端に道路が狭くなっている。高安駅前の踏み切りにいくとまた急に狭くなる。先ほどの話にあった高安駅前の踏切の歩道は本当に危ない。道路を広げようと思ったら立ち退きをしてもらわなければならない。簡単にできるのであればとっくに解決している。先ほどマナーだけでは解決できないという話があったが、みんなが助け合ってどのようにして事故を防ぐかという知恵を絞らないとハード面の問題をカバーできないと思う。
- ▼ 先ほどお尋ねになられていた件についてお答えさせていただく。まず八尾市内の自転車の数のデータを持っているかというお尋ねについてだが、そのデータは持っていない。一般的に言われているのは、八尾市は他市と比べて平地が多いという特色から自転車の利用者は多いと認識している。都道府県別に取り残されている「自転車の販売台数」というデータはある。それから山本駅前の駐輪場をラック式にする工事が現在行われている。今まではワイヤでロックするタイプの駐輪場だが、自転車と自転車との間に隙間ができてそこに自転車を突っ込む不正利用が多かった。それに伴い周辺にも自転車をどんどん置かれるということがあった。それでは正規の利用者や歩行者に迷惑がかかるということで、今回その駐輪場を管理運営している八尾シティネット株式会社のご協力を得て現在工事を行っている。それで二重駐輪がなくなっていくかどうかはわからないが、今回その駐輪機には30分無料のシステムを導入する予定である。どういうことかということ、近隣のスーパーや商店街のお客さんもその駐輪場を利用して買い物をしていただくことができる。30分までは無料なのでそれまでに買い物が終わる方にはそこをご利用いただいて、周辺の放置自転車を少しでもなくそうという試みである。その結果どうなるか推移を見守りながら対策を講じていくつもりである。
- ▼ 30分無料ということだが、その後はどうなるのか。
- ▼ 30分を過ぎると前輪のラックの部分がロックされて自転車を出せなくなる。料金を支払うと自転車が出せるようになる。
- ▼ 自転車の数が多いという話があるが、自転車を減らすということは、車に乗れない人は買い物に行ったり駅に行ったりするときに歩いていかないといけない。バスを利用しようにも、1時間に1,2本ぐらいしか出ていない。バスの本数を増やすことによって自転車の数を減らすのも一つの方法かと思う。15分に1本ぐらいの感覚でバスが出ていればバスを利用する人も増えると思う。
- ▼ 近鉄八尾駅前のラック式の駐輪場があまりにも少ないので噴水広場周辺にも設置したらどうかという要望をさせていただいたが、献血のバスも来るしできないという回答だった。その時に適当

な場所を探して設置するという返事をいただいたが、一体どこにそんなスペースがあるのか。

- ▼ 先ほどもっとバスの本数を増やしたらどうかというお話があったが、昔はもっとバスが走っていた。ところがみんなバスに乗らずに自転車に乗った。だから民間バス会社は採算が取れずにバスの本数を減らしたり路線を廃止したりしてしまった。昔は八尾—山本間で小阪合経由と緑ヶ丘経由でバスが走っていた。今はない。乗らないからである。山本—恩智間もバスが走っていたがこれも今はない。あいあいバスもなくなった。なぜ乗らないかという自転車があるからである。こういった経緯を考えてバス等の公共交通機関を有効に利用できるようにすると、道路の混雑も緩和される。運賃の問題もある。運賃が高いから乗らない。乗らないからまた運賃が上がるという繰り返しである。そういった事情も含めて考えていくことが大事だと思う。バスは便利ですが時間の問題がある。例えば1時間に1本走っていたって意味がない。赤字になると民間会社は当然廃止するので。
- ▼ 自転車の問題だが、自転車の数が多いのではなくて自転車を利用する人が多い。私は2キロ以内だったら歩けと言っている。今は500メートルほどでも自転車に乗って、その自転車を放置している状態です。わたしは高齢者の運転する自転車が向かって来たら危ないので避ける。自転車の問題は数だけでなく、子どもたちの教育も含めて小学生から70歳くらいの高齢者まで一緒に考えないといけないと思う。

#### 【おわりに】

##### アドバイザーからのコメント（要約）

- ▼ 今日始めて参加された方は、自己紹介で全員にマイクが回ってくるのかという戸惑いがあったかもしれないが、お名前だけでも言っていただいて次の方にマイクを回すという感じでもいいと思う。  
みなさんが全員おしゃべりだったらいくら時間があっても足りないので、私は聞きに来ただけだという方も次回以降参加いただければと思う。人の意見を聞いているいろいろ思うことがあるかと思うし、それが波及効果になっていくと思う。  
バスの話が出たが、バスの回数カードをご存知の方も多いと思う。2000円で2200円分、4000円で4400円分というふうに乗れば乗るほど安くなるというものだが、あちこちの市で仕事させていただいているので、その市内を走っているバス会社のカードを使っている。バスの回数カードは鉄道の回数カードと違って期限がないので、このようにみなさんも自分で自分にプレッシャーをかけていただくとバスに乗ってもらえるのではないかと思う。  
先ほど昔のバス路線の話があった。昔は茨木から八尾までバスが走っていたが、利用者が減って廃止になってしまった。今代わりにモノレールが中央環状線の上を走っているが、門真市駅で止まっている。みなさんがお客様になってくれなくなったということが大きいと思う。それにはいくつかの原因があるかと思うが、「待つ」ということがだんだんできなくなってきたと思う。地方に行くと電車でも1時間に1本くらいしかないところもあるが、そうなるとちゃんと時間を見繕って帰ろうとする。ところが大都市に住んでいると電車が数分に1本くらいはある。待つというのをしなくても良くなったので、待たされるとイライラするようになる。待ってられないからバスに乗らなくなってきた。待たなくてもいい乗り物は何かという、自転車か自動車である。これらは自分の時間の都合で移動できる交通手

段であるが、人は「待つ」ということが必要ない乗り物にどんどん移行してきていると思う。私の授業を聞かずにスマートフォンをさわっている学生がいるが、その学生を注意する時に「君たちは待つとか我慢するということができなくなっているのではないか。」と言ったことがある。昔は授業がつまらなくても無理やりにも聞かなくてはならなかったが、こういう便利なものが出てくると、授業がつまらないから友達とメールをしたりゲームをしたりする。スマートフォンも待たなくて済む道具である。世の中が待たなくても済むようになってきているがゆえに、授業を聞かずにスマートフォンをさわったり、あるいはバスとか電車などの待つことが必要な交通手段から離れていきやしないかと思っている。人間の暮らし方や、大げさに言えば生き方自体を見直していかなければならない世の中になっているのではないかと思う。

今、周りの人達とか社会のことを考えないで行動する人が若者を中心に増えている。最近の例で言うと、コンビニの冷凍ケースの中に入って自慢げにフェイスブックに写真をアップして店長を困らせたというニュースがあった。それからUSJで迷惑行為をひけらかして問題を起こした学生もいた。大学の教員をやっていると思うことは、何をするかわからないというふうになってきていることである。この前も問題を起こした学生を呼び出して注意すると、何が悪いのかという感じであった。自分の都合ばかりで周りの人のことを考えない、自分の行為で周りの人が迷惑するとか社会にどんな影響があるかといったことが思い描けないようである。私はルールが無くてもみんなが周りの人達のことを考えて行動すれば何とかなると思っているが、そうじゃないから厳しいルールをつくらないといけない、それでも守らない人には全然効果がないというイタチごっこになっている。もう一度原点に戻って一人ひとりがみんなのことを考えて行動する、あるいは自分の都合だけで考えるのではなく待つ時は待つ、我慢する時は我慢するといった昔ながらのことを取り戻さないと、交通問題も解決できない部分があると思う。大変なことだが、諦めないで少しずつでも人の気持ちが変わるようなことを考えていけば、交通問題だけではなくいろんな社会問題が一挙に解決に向かうのではないかと思う。

自転車の良さをもっとアピールしたらどうかという話があったが、私も賛成である。今日のニュースでDJポリスの話があった。DJポリスはサッカーの試合後の路上での大騒ぎをうまく治めたことで有名になったが、昔の警察官のように「～したらダメ」とか「～しなさい」というような言い方ではなく、みんなをその気にさせるものの言い方をする。イソップ童話に「北風と太陽」という話があるが、旅人のマフラーを取らせようという時に、北風は風を吹かせて無理やり取らせようとしたが、太陽はぽかぽかと暖めることによって自分からマフラーを取らせることに成功した。このように北風ではなく太陽のやり方で交通マナーを高めていくことも一つの方法だと思うので、それをみなさんと考えていきたいと思う。

バスのお話に戻るが、自分が言ったことに責任をもって行動に移してくれる人がどれだけいるか。八尾市のコミュニティバスを廃止するかどうかの委員会に私も入っていた。心情としては廃止してほしくなかったが、1年間に8000万円の税金を使って走らせていた。その委員会で「うちの地域ではなくなったら困る。」という意見が出た。「それではあなたはバスに乗るか。」と聞いたら「私は乗らない。」というやり取りがあった。「私も一緒に乗る。」といってくれたら話しの展開は変わってくるが、「私は乗らないが、困る人がいる。」という話になるとなかなか好転しない。皆さんがお金を出して責任を持つというこ

とがポイントになると思う。交通まちづくり懇話会での話にふさわしくないかもしれないが、高知県津野町に床鍋という集落がある。そこから先に村はないという端っこに位置する集落である。買い物にも困っていたところ、小学校の校舎に空きが出てそこに国から補助金をもらって施設整備をしたが、その中に集落コンビニというものをつくった。その集落から車で30分ほど走れば大型スーパーがあるが、車の運転できない人のために集落コンビニをつくってその方たちも買い物ができるようにした。その際に「つくるのはいいが、みなさん本当にそこで買い物をするのか。」という話が出た。そして100件くらいの集落だったが、1軒1軒まわってあなたの家は月いくら使うということを約束させた。だから今も潰れていない。これが一つのポイントだと思う。またそこのお店の従業員は地元の方なので、そこで買い物をするとその方のパート代にもなる。またその集落の居酒屋の店長に村一番の酒飲みを指名してみんなが飲みに来るようにというおもしろい仕掛けをしながら、みんなで責任を持って行動している。八尾市のように27万人の市民がいれば、みんなでということはなかなか難しいかもしれないが、言った限りはみんなで責任分担してやっていけば解決に向かうこともあるかもしれないという話を最後にさせていただいた。私も協力できることはさせていただくので、また次回もこういう場でお話とかアイデアを持ち寄りながら良い方向にもっていければと思う。

【閉会のあいさつ】（略）